

第3回 新たな図柄入りナンバープレートの導入に関する検討会 議事概要

1. 日時：令和2年10月30日（金）13：30～15：00
2. 場所：WEB開催
3. 出席者：石田委員、北嶋委員、竹岡委員、寺井委員、吉田委員、
板崎委員、岡安委員
※ また、設置要項3（2）により、検討事項に関係する者として日本自動車輸送技術協会の原氏にも出席頂いた。
4. 議事（概要）
 - （1）デザイン選定方法について、資料1により自動車技術会デザイン部門委員会への協力依頼結果を報告し議論を行った。
 - （2）図柄入りナンバープレートの視認性について、資料1により新たな検討課題に掲げ、資料2により視認性に配慮したデザイン作成に関するガイドライン等について説明し議論を行った。
 - （3）今後のスケジュールについて、資料3により交付開始までの予定を説明した。
 - （4）地方版図柄入りナンバープレートの今後のあり方について、資料4により現状の課題等を説明し議論を行った。

<デザイン選定方法について>

（事務局の説明）

- 今後、デザイン募集要項案を策定し、次回12月の第4回検討会にお諮りし決定したいと考えている。

（委員からの主な意見）

- デザインコンペの実施案内については、自動車技術会デザイン部門委員会所属の方々の母校にもできるだけ告知を広げていただくようお願いをさせていただきたい。
- ナンバープレートのデザインをするのに、必ずしもカーデザイナーである必要はないと思う。
- デザインの募集対象を誰でも良いとすると、選定の作業量が膨大なものになり、盗用騒ぎや著作権のクリア等のチェックにかなり手間暇かかることになると思う。
- 募集対象は学生に絞っても良いのではないかと思う。プロが前面に出てくるというよりはプロは裏方に回って、学生を育てるという方が、テーマである『日本を元気に』や『立ち上がれ日本』という若い人の活力的なストーリーができると思う。また、著作権は学校である程度指導してもらえる可能性が高いので、有象無象のものが出てくる可能性は低いと思う。
- 学生から上がってきた案をプロのデザイナーが評価し学生にフィードバックした

上で、10案程度に絞り、検討会上げてもらうという流れが良いのではないかと。

- 最終的にナンバープレートは車に付けるものなので、デザイン選考の過程でカーデザイナーの目が入るのは良いと思う。
- 学生の定義を明確にできるか。カーデザインを勉強している学生というのが条件として通じるのか、美術大、芸術大と限定した時に、専門学校は含めないのか等、募集要項を見て応募できる人できない人の不平等さが出ないようにできれば良いと思う。
- 学生と言っても専門分野が非常に広いので、例えば、39歳までとか年齢で区切ることもできるのではないかと。
- 応募者に小学生まで出てきてしまうときりが無い。また、募集要項を見て誰に向けて募集をかけられているのかが判断できるという意味でも、高校生以上にしておいた方が良いと思う。

(まとめ)

- 事務局でデザイン募集要項案を策定し、次回12月の第4回検討会で決定する。
- 募集をかける際に、若い人に期待するというメッセージを強く打ち出す。

<図柄入りナンバープレートの視認性について>

(事務局の説明)

- 図柄入りナンバープレートの視認性に関するご指摘を踏まえ、ナンバープレートの視認性に配慮したデザイン作成に関するガイドライン案を策定し、次回12月の第4回検討会にお諮りし決定したいと考えている。
- 軽自動車の黄枠、事業用自動車の緑枠について、プレートフレームの装着があっても判別できるよう、塗色を追加することとしてはどうか。

(委員からの主な意見)

- 募集要項に、選ばれたデザインについては、選定後に視認性の観点から色を薄くする等の調整を行う可能性があるという一文を入れておけば良いのではないかと。
- 個々のナンバーの視認性を確認する上では、現行の視認性試験で十分ではないかと。
- ナンバーの視認性試験としては、人が見る官能試験が適切とは思いますが、ETCゲートや駐車場のカメラでもナンバーを読み取れていることを示した方が分かりやすいと思う。
- 目視試験以外にも、高速道路料金所等のカメラ試験も合わせて行っている。
- デザインよりも視認性を重視すべき等の意見はナンバーの原理原則からしてもその通りだと思う。一方で、例えばオリパラナンバーであれば、全面にデザインしているが、少し離れてしまうとデザインが見えなくてナンバーだけが見えるということで、せっかく図柄を付けたのにデザインが見えないというようなユーザーの意見もある。
- 仮に全面デザインだとしても、背景色を薄くするようなことで、視認性を阻害することなくできると思う。もっと色は濃いようにしてほしいというユーザーの意見もある。

る。

- 一般の方の関心ごとは、図柄によってナンバーが見えにくくなるということなので、視認性試験によって図柄を入れても視認性に影響がないということを証明できないか。
- 図柄が入ったら、必ずしもナンバーの視認性が低下するというものではない。背景色とのコントラスト次第で普通ナンバーよりも図柄ナンバーのナンバーが見えやすくなる場合も考えられる。

(まとめ)

- 事務局でデザイン作成に関するガイドライン案を策定し、次回 12 月の第 4 回検討会で決定する。
- 事業用、軽自動車の枠のデザイン変更については、事務局案を作成する。

<今後のスケジュールについて>

(事務局の説明)

- 令和 3 年 1 月頃からデザイン募集の周知を行い、2 月頃からデザイン募集、その後自動車技術会のご協力いただきながら 10 案ほどを選定し、本検討会で 5 案程度に絞り、国民投票を経て、最終的に 1 作品を決定するという流れで考えている。
- 大阪万博のナンバープレートについても、今後議論になると思われるので、この流れとは別途スケジュールに入り込んでくることになると考えている。

<地方版図柄入りナンバープレートの今後のあり方について>

(事務局の説明)

- ユーザーから人気のない状況が延々と続くのであれば、どこかで見切りをつけて他の図柄に切り替えるということもあるのではないかと考えている。
- 地方版図柄入りナンバープレートの採用後の自治体による継続的なプロモーション活動を促すための制度が必要ではないか。

(委員からの主な意見)

- 様々ある課題に優先順位を付けて、どこに注力するのか絞った上でそこを先に解決した方が良いと思う。
- アメリカでは事前に保証金を支払ったりするような制度がある。また、購入者のリストを事前に提出しているようなところもある。現行の地方版図柄入りナンバープレートの制度では、自治体への導入後のペナルティがないので何らかの対策が必要と思う。
- 図柄の変更を認める制度には賛成だが、変更する際はある程度まとめて時期を合わせて行っていただかないと毎月毎月変更となるのは厳しい。
- 成績が悪く努力のない場合は、色んな所にご負担をかけるので、売れないナンバー

にはご退場いただくということも積極的に考えてはどうか。

- ふるさとのナンバーをつけたいというニーズはどれくらいあるのかを何らか調査する必要があるのではないか。
- 自治体にはゴール設定をした上で、しっかり守ってもらうことが必要か。
- 自治体による買取制度があっても良いのではないか。
- 普及率の上昇・下降状況は、図柄の変更スパンを決める際の参考になるのではないか。
- 自治体に現行の課題を確認してみても良いのではないか。
- 標板製作事業者だけがリスクを負っている状況は解決すべきと思う。

(まとめ)

- 委員からの意見を踏まえ、地方版図柄入りナンバープレートの今後のあり方について検討を継続していく。